

令和元年度石川県環境審議会
第2回企画計画部会
第2回持続可能な社会形成部会 議事録

1 日 時

令和2年2月20日（木）13：30～15：40

2 場 所

石川県地場産業振興センター 本館3階 第3研修室

3 出 席

青海委員、大谷委員、河内委員、鈴木委員、中本委員、早川（和）委員、早川（芳）委員、林委員、番匠委員、富久尾委員、古池委員、丸山委員、結城委員、荒木専門委員、小柳専門委員、毎田専門委員

計16名

4 議 事

石川県環境総合計画の素案について

議事について、各委員から以下の発言があった。詳細は以下のとおり。

（委員）

この計画素案で、私がまず問題にしたいのは、気温が今世紀末までに4度上昇するという箇所です。さりげなく書いてありますが、4度上昇するのはどういうことであるかという問題です。加賀山地の実測された気温減率を含めて計算すると、4度上昇ということは、植生帯が600mから1,000m変化するという事になります。石川県の現在のブナ帯の下限は400mですから、1,000mから1,400mまで登らないと、ブナ林が見られないことになります。資料にはトキとかライチョウのことが書いてありますが、そういう話じゃないんです。もっと重要な、ものすごく大規模な、各分野にわたる変化が起こるんです。この事態を目前にして、県の方でどういう見積もりをしているのかということです。これは非常に大事なことで、この4度という見積もりは果たして本当かということはもちろんあるんですけど、明治時代以降の観測データによると、石川県でも1度くらい上がっていますから、私はありそうな話だと思っています。そうすると、石川県の生物多様性にも大きな影響が出るのが予想されます。生物多様性の問題では、今ちょうど動物も植物もレッドデータブックを調べているんですが、この10年間に絶滅した種類は、植物の場合で言うと10種類くらいです。県内で知られている植物は、2,550種類くらいあるんですけど、そのうち10種類くらい。ただ、絶滅以外に行方不明というものがあります。石川県の場合で言いますと、だいたい70種類くらいあるんです。DD、Data Deficient と言って行方不明ということ。それから最も問題なのは危篤に相当するCR、つまりCritically Endangeredというランクで、いついなくなってもおかしくないというのが、今回の調査でまだ結論は出ていませんけど、だいたい140種類くらいになります。それから外来種では、帰化植物がだいたい440種類程度なんです。現在の評価でいついなくなってもおかしくない、絶滅する可能性の高い種類が140種類程度もある

わけですから、植物の場合で言うと、絶滅種を現在の10種類に抑えるという状態が果たして維持できるのかと言え、全然当てがえないんです。それで、どういう対策をとるかが大きな問題になるんですけど、こういったことはしっかりデータを集めて調べないと分からない。20年ほど前のことですが、県立自然史資料館が、県民5万人の請願があり、この審議会でも委員の皆さんにご支持いただいて、実現してきた経過があります。植物分野で言いますと、ここにはだいたい30万点ほどの植物の標本が集まっていて、収蔵量は北陸一番というか、中部地方でも1、2を争うしっかりした施設なんですけど、利用について言うと、実は県庁全体の利用が非常に悪くて、どちらかという国の機関の利用がすごく多いんです。だいたい1週間か2週間ぐらいに1回くらい関係者が来ますけど、ほとんど国の機関なんです。だからこういうのを活用すればいい。動物の方は植物より10倍以上種類がありますから、なかなか標本が整っていないんですけど、たいていの問題は、基本的なデータをしっかり集めて、その上で対策を立てることが重要だと思うんです。そういうことで、これは容易にならざる事態なので、県の方でどういう風に扱っているか分かりませんが、こういうものに対しての対策にあたっては、もうちょっと総合的に考えて対処の方針を立て、また、本当の姿というものを県民にしっかりお知らせすることが必要じゃないかと思えます。だけど、計画素案で自然史資料館自身が与えられている役割は展示をするということだけなんです。展示は必要なことで、やらない方がよいということではないんですが、自然史資料館自体は、自然に関する標本の収集・収蔵、それから調査・研究をする、それから展示をする、教育・普及活動をするという4項目が条例で決まっている機関ですから、計画ももちろん大事なんですけど、そういうところを利用して、科学的な見通しをもう少し具体化して、実際はどういうことなんだということをしっかり書かなければいけないと思う。

(部会長)

県のレッドデータブック掲載の絶滅種が16種、県指定希少野生動植物種が20種と書いてあるが、今世紀末に4度上昇するということを踏まえて、やはりデータを集めてきちんと対策をする必要があるんじゃないか、それから、自然史資料館の役割をもっと考えられないかというご意見かと思えますが、これについて事務局、意見いかがですか。

(温暖化・里山対策室次長)

まず、石川県の気温が今世紀末に4度上がるということについてですが、21ページにも書かれています、気象庁の方のこれまでのデータから、金沢気象台の方で出しているものをデータとして引用させていただいております。もう少し詳しく申し上げますと、21世紀末に地球温暖化対策がなされていない場合でも2.6度から4.8度上昇するということで、このままでは石川県、金沢市ですが、今世紀末には4度上昇するということが気象庁からなされているということです。

(生活環境部次長兼自然環境課長)

絶滅のおそれのあるもの、あるいは絶滅種においては、今現在、委員にも協力いただき、レッドデータブックの年度末公表に向けて、最後の作業を進めているところですけど、引き続きやっていきますし、結果のデータベース化も進めていきたいと考えております。

(部会長)

委員から自然史資料館の役割について具体的に取組めないかという話でしたが。

(生涯学習課)

自然史資料館の役割ですが、県民に親しまれる施設としての展示、さらに、貴重な資料もありますので、今後の地球環境のため、データを活用できるようにお願いします。

(部会長)

これまでのご意見を伺っていると、例えば絶滅危惧種、動物、植物、それらをちゃんと調査できる人達が石川県では少なくなってきている。そういう人材育成を考えられないかというご意見を委員はずっと言っていたのですが、今言われたご意見はそういうことにも関連する捉え方ということによろしいでしょうか。

(委員)

自然史資料館には県職員以外に、指定管理者の石川県自然史センターが採用しているドクタークラスの人が各分野におりまして、現在、4人か5人おりますけど、それらの人たちが中心になっているんですが、県下の植物をはじめ自然史の調査においてどうしても人が足りないのので、自然史センターに自然系の団体が30団体くらい、個人会員が100名程度集まって、協力する形になっているんです。自然史資料館の役割は社会的にこうあるべきだということになっているし、条例上も調査研究ということが、自然史関連の資料を集めることと併せて書いてある。前回この計画が立てられた際は、自然史資料館の開館が1つ課題であった。それが実現してから10年経って、実は博物館の規模としてはだいたい300万件くらいないと本当は困るんですけど、例えば植物について言うと、現在30万件程度集まっているんですけど、それを基礎として、現在の自然の具体的な評価をやっている。その成果を環境行政に活かしてほしいというのが要望の1つですし、もう1つは自然史資料館を支えてきた人たちの高齢化、これをどうするか、私はこれも心配している。せっかく県の施設として作ったものだから、活用したらいいんじゃないか。国の機関の方はよく使っているので、県の機関からの活用が少ない。

(部会長)

これを踏まえて検討していただきたい。もう少し委員からご意見があるということで。

(委員)

環境教育については、トキ、ライチョウも大事なんですが、1番大事なことは、住民が住んでいる身の回りがどうなっているのかということなんです。例えば、かつての小学校、中学校では、学区内にどういう動物・植物がいるか、環境がどうなっているかを先生方はある程度知っていた、というかかなり知っていた。だから、分からなければ先生に聞けば分かった。ところが今は、学校の先生方が悪いんですけど、私も昔教師でしたから申し訳ないことなんですけど、全然知らないのが現状です。今はボランティアで、専門的な人があわせて30人くらいいますけど、その方たちが学校へ応援に来ている状態です。教育委員会は現在の状況を知っていると思いますけど、まず学校において、身の回りにどういう種類の生物がいるかということ、子どもたちにしっかり知ってもらう必要があると思うんです。私も昔教師をしていた時には、生物を履修した場合、だいたい300種類くらいを生徒が知っていることを目標としていました。300種といえば、図鑑が使えるぐらい。単語をいくつか知っていないと英語の辞書を引けないのと同じように、それぐらい知らないと前後が分からないんですよ。だから私は300種を知っていないと単位をあげませんということをやったら、昔の子どもはみんなできるんですよ。書かせるとだいたい70種類くらいは知っている。現在の子どもは恐竜の名前は覚えて

いても、ひょっとしたら道端の植物の名前は分からないのではないのでしょうか。昔の子どもはどこそこにどんなトンボがいるのかを知っていたものですが、今はどうなんだろうと。そういうことがしっかりしていないと、生物多様性の保全だとか言ったって、分からなくなってしまうんですよね。だから、そこをしっかりやらないと学校教育はだめだろうと感じています。そういうことは大事なことです、一言申し上げたところです。

(部会長)

今、委員の仰られた、ちゃんと動植物の研究をしている学校の先生が少なくなっているということは、今の時代に重要な課題としてあると伺ったんですが、事務局の方から何かコメントございますでしょうか。

(学校指導課)

今言っていた視点を踏まえて、学校における環境教育を検討していきたいと思っています。

(委員)

石川県の計画ですから、能登も含まれますよね。最後にトキが見られた輪島の丸山に、東京からいらしたご夫妻が住んでくださっています。ご主人は建築家で奥様はデザイナーです。10年以上もの間、自分の子ども達と地域の小学生達と一緒に、身の回りの生物・動物を採取し、名前を調べて、学問的な名前と、日常的に呼ぶ名前とを書いた、素晴らしい冊子を作っています。それが全県でできるかと言われれば、たぶんできないと思いますが。小さな活動です。全く無償で、子ども達は採取も面白いし、名前が分かってくるのも面白いので、非常に活発な活動です。10年以上経っているので素晴らしい結果を持っています。委員、その方とご連絡をとられて、この活動を金沢や様々なコミュニティにも広めてもらったらどうでしょうか。そういう地道な研究をしていらっしゃる方もいるので、ゼロではないです。調べた名前を全部紙に印刷して、自分たちのあえのことに使っています。〇〇と呼ばれるグループが素晴らしい活動をしています。委員、そこはがんばっています。ゼロではないです。

(委員)

産業界からの意見なんですけど、2月15日の北國新聞に、「いしかわ版 全国初の環境ISO」というような項目が載っていたんですけど、このことは我々、繊維産業に携わっている者として非常にありがたい、背中を押していただけるようなことだと思ったので、ありがとうございます。ここにおられる皆さんも、一糸まとわずにいる方はいないと思うんですよね。全ての方が繊維、糸でこの身をまとっていることが分かると思うんですけど、そういう産業も、環境に負荷をかけながら仕事をしているんですけど、一人ひとりが環境に負荷をかけながら生きているんじゃないかと思うんです。そういう意味で、皆さんの貴重なご意見に僕も心を打たれることがたくさんありました。

(部会長)

今、委員が言われたのは、全国に先駆けてやっている、いしかわ版環境ISOについて、県内の方々は分かるかもしれないけど、もう一度宣伝しても良いんじゃないかというご意見かと思えます。

(委員)

全国に知られた素敵な出来事を、私ももう1つご紹介したいです。皆様もご存知だと思いま

すが、「ZEB」という新しい名前をお聞きになりましたか。NHKが全国放送をしました。「初めてこの言葉が使われるのは金沢市です」とニュースが伝えていました。慌てて一生懸命見ました。金沢市の真ん中あたり、玉川公園のそばを、今、〇〇が更地にして、これから新しい〇〇の建物を建てます。「ZEB」は、「ゼロ・エネルギー・ビルディング」ということで、これから日本全国に広まって行って欲しいという、NHKの希望的なレポートでした。〇〇は建物を建てる会社ですから、これまでは環境に負荷をかけていたんですが、これからは自社ビルをエネルギーゼロにしていきたいという新しい動きがNHKのニュースで全国に放送されて、とてもうれしくて誇りに思いました。

環境にやさしい活動をしているところをもう1つ紹介します。春蘭の里のように有名ではありませんが、〇〇さんという女性が、マイクロプラスチックをろ過した海水を使って、自然の塩を塩田で作っています。地味な活動ですけども、一生懸命、環境に負荷をかけないような方向に努力をしている人がいることをお知らせしました。

(部会長)

貴重なご意見で、第1章の地球環境の保全の事業者の活動の推進のところに書けたら良いというご意見だったかと思います。事務局の方から何かご説明ございますか。

(温暖化・里山対策室次長)

いしかわ事業者版環境ISOと言いますのは、県内の事業者が、自主的かつ簡単に環境マネジメントシステムに取り組むための本県独自のシステムでございます。平成19年から実施しているもので、これまでの取組としては、例えば、事業所の中で使わない部屋の電気を消すとか、節水に取り組む、両面コピーをするといった、事務所の中で取り組むものがかなり進んできてはいたんですけど、今仰ったような、いわゆる製造現場において、製造効率を保ったまま省エネ活動をするというのはなかなか難しいというか、どうしていいかわからないといったお声を頂戴しましたので、来年度、工場のような生産現場ですとか、宿泊施設のようなところを対象としたISO、工場・施設版環境ISOというのを立ち上げ、省エネ設備の導入支援と合わせて行うこととしております。

(委員)

ご説明いただいた計画の素案に関してですけど、6ページの第2編の構成のところ、計画推進のための取組みとして6つの柱がございます。それぞれに関しては詳細に説明をいただいたんですけど、この6つの柱が個別に存在しているような印象が非常にありまして、この6つは有機的に相互関連があるわけですよ。例えば、第1章の地球温暖化防止のところですけど、私はフードロスの問題が地球温暖化防止に非常に関わってくるだろうと常々思っております。フードロス、つまり、食品製造に関すること、流通に関すること、廃棄物の処理に関すること、全てが温室効果ガスの排出に関わってきますので、フードロスがどうして出てこないんだろうと思いつつ見していたんですけど、県庁の取り組みのところ、ひっそりと掲載されていました。地球温暖化防止というのは、私たちが食べている物そのものが関わってきているんですという、自分ごととして捉えるポイントになると思いますので、フードロスのことをもっと大きく出されていいのではないかと思いますし、もちろんフードロス無くすというのが循環型の志向に関わってくることでありますので、大きく出ているのが、第2章の循環型社会の形成のところなんですけど、第2章で大きく取り上げられているだけではなくて、第1章の地球温暖化

防止とも非常に関わってくるので、相互関連ということ、例えば各章の説明の前に入れられれば、より読み手の心に響くのではないかと思いました。同様に、第3章の自然とのふれあいの推進は第6章の環境教育と関わってくるでしょうし、第2章の循環型社会の形成とも密接に関わると思います。今のままですと、6つの取組みの柱の繋がりが見えてきませんので、県の総合計画に入ることが、果たして妥当かどうかということは分かりませんが、やはり読み手の心が動かないと行動には移せませんので、読んでいてああそうかと腑に落ちるような形で織り込まれてはいかげなかなと思います。

(部会長)

事務局としてはきちんと整理して分けることは得意だとは思いますが、関連性をうまく県民に分かるように示してもらわないと、ということだと思います。

(委員)

今の委員の意見と関連する意見なんですけど、この6つの柱というのは、私は結構よく考えたなと思っています。元々、2007年頃に、環境省が環境における大きな問題として、地球温暖化防止、循環型社会の形成、自然との共生の3本柱というものを立てて、なんとか取り組んでいこうという話を進めていたことに対して、さらにその他の従来からの大気環境とか水環境といったものと合わせて4つという形で整理したものだろうと思う。その後の環境政策の推進の中で、地球温暖化、循環型社会、自然共生の話は、バラバラに考えることはできないということが明らかになってきて、3本の柱は相互に連携するものだという形で位置付けてきた。第1章から第4章までは、そういった議論の経過を踏まえて作られたものかなと認識しています。それに対して、第5章、第6章というのは、これから産業との関係というものをどう考えていくかということが非常に重要、あるいは人づくり、地域づくりということが非常に重要ということで、今回特記的な横断的事項という形で作ってきた。そういう意味では非常によく考えられているのではないかと思っています。ただ、石川県の特徴かもしれないんですが、地味に作られていて、まさに委員が仰るように、全体がどう繋がっているのかという部分が必ずしもきれいに見えていないのではないかなという点は、気になっているところではあったんです。

同じような観点から見ると、今、我が国において最も大きなトピックになっているのは、産官学含めたSDGsの推進ということで、今、東京にいと、毎週必ずどこかでSDGsについての議論がなされています。石川県のお役人さんは大変優秀な人達が多くて、SDGsや、環境基本計画、ESDとかいろいろなことについて、必ずどこかに散りばめられているんですけど、大きなトピックとして整理されていなくて、割と地味に書かれているから、目立たないという問題があるのかなとちょっと気になっています。世界全体を挙げて、あるいは日本でも政府を挙げてSDGsの推進ということをやられていて、昨年12月にはSDGsの実施指針の見直しも行われて、2030年に向けて、我が国がどう進んでいるのかを、まさに産官学を挙げて議論をしていて、産業界が非常に力を入れて議論をしています。〇〇なんかでも、そういったことについてのワークショップを開いたりしているような状況です。SDGsは5ページ目で書かれているんですけど、そういった世界的な状況、日本全体の状況というものを踏まえた時にどうか、あるいは計画の期間とか目標年次といったものについても、6年間の計画ですということ、それはそれで妥当かもしれないと思うんですが、2030年というものを見込んだ上で、当面の6年間はどのようにするのかといった形で、もう少しはっきりとまとめていか

れると良いのではないかと考えています。

(部会長)

1つは今回の6つの柱について、委員の方からはこの6つをうまく抽出しているのではないかと。でも委員が言われるように、連携がちゃんと示されてなくて、一番最初のところにせつかく挙げているのに、挙げただけという状況になっていますよということがありました。それからもう1つは委員の方から、SDGsについて、5ページにひっそり出ているけど、もうちょっと強調しないといけないのではないかとご意見がありました。

(生活環境部次長兼環境政策課長)

確かに、第1章から第4章は国が言う縦の柱、第5章、第6章は横断的な柱として組み立ててはいるんですが、組み立てた意図が6ページに記載されていないのではないかとのご指摘でしたので、そこは少し工夫をしたいと思います。それと、委員が仰った世界全体、日本全体の動向の中で本県がどう進めていくかという観点も、少し検討をさせていただきます。

(委員)

石川県のお役人さん達は非常に優秀なのですが、大変地味であるといったことに関係してくるのですが、まず、第1章の地球環境の保全の中で、石川県がやっている素晴らしいことをもう少しハイライトしたら良いんじゃないかと思います。石川県が地球温暖化対策でやっている特に優れた施策の1つとして、建築物に対しての取組というものがあると思います。金沢工業大学の〇〇先生を中心としながら、建築物における対策をやってきました。建築物における対策というのは、耐用年数が30年、40年あるいは50年、60年といったものですから、タイミングを見ながら対策をとっていくことが非常に重要で、これについては石川県が日本全国に先駆けて一生懸命取り組んできたことであり、それをハイライトすることが重要ではないかと思っています。実際に数字がいくつになるかということについては、これからこの審議会で見直す形になっていきますから、それよりも施策の方向性をどうもっていくかということが重要だと思います。地球温暖化問題に関して言うと、電気を小まめに消すことを一生懸命やっているということが、アンケートで出ていますけど、それだけではとても進まないということで、第5章で書いているような、高い技術力を持っているものづくり企業を一層勇気づけて、新しい技術的な革新を生み出していくことが、これからの地球温暖化対策の中で最も重要になっていくのではないかと考えます。第5章では、いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンドとか、いしかわ次世代産業創造ファンドといったことがしっかり書かれていますけど、それが必ずしも第1章の地球環境の保全の中にきれいに書かれていない。先ほど委員が言った、各章間の繋がりとか連携といった問題が必ずしも十分反映されていないのではないかと。地球環境の保全において、石川県が最もハイライトできるような事項というのが、必ずしも書かれていないのではないかと。そこをもうちょっとハイライトできるような形にすれば良いのではないかと。思います。

それから、第2章の循環型社会の形成について言うと、今、顔の見えるリサイクルのような話が、いろんな形で進みつつあるので、そういったことをより大きくハイライトしていくと良いのではないかと。また、石川県では観光産業がますます進んでいく中で、観光産業における廃棄物問題について、災害廃棄物とあわせてしっかりと考えていくことが重要ではないかと思っています。

第3章の自然と人との共生の関係では、2010年に生物多様性条約のCOP10があった時にも、当時の環境部長に指摘をさせていただいたのですが、白山はユネスコエコパークにもなっていることについて、本文にひっそりとユネスコエコパークになっていますよと書いてあるのですが、今、文部科学省では、ユネスコエコパークをジオパークと合わせて強力で推進していくことをうたっているのです。是非、ユネスコエコパークのような制度を活用して進めていかれたら良いのではないかと思います。また、既に書いておられますけど、里山里海の資源を活用した生業創出とか地域づくりといったことが、おそらく後に出てくる農業の問題とも絡んでくるのですが、これから力を入れていくことがすごく重要な分野になっていくと思います。

第5章の質の高い環境の形成に資する産業活動の推進については、非常に素晴らしいことではないかと思います。産業との連携をしっかりと進めていくことがとても重要なことで、ここに書かれているようなことを一生懸命進めていかれると良いのではないかと思います。

最後になりますけど、第6章の環境を通じた人づくり・地域づくりの中で、学校における環境教育というものについて、今、最大の課題というのは、学習指導要領が2017年、2018年に改訂されて、小学校では今年の4月から全面的に適用される形になる中で、SDGsやESDについても、4月から教えなければいけない状況になっていますが、必ずしもそれに対応できるような教員側のトレーニングが進んでいないのではないかと懸念されているところです。そういった問題への対応といったことも考えていった方が良いと思います。

それから自然体験のプログラム、これは学校における環境教育が、ただ環境について学ぶ場があれば良いというよりも、体験教育を通じて何を学んでいくかということをもう少ししっかりと、カリキュラム的に組み込まれていくことが必要になってきているのではないかと環境教育等促進法基本方針の改定の中でも明確にうたわれている話ですので、ただやるかやらないかだけではなく、どういう内容についてプログラム化していくのかといったことも併せて考えていただけたらと思います。今回新しい目玉の1つに保育所・幼稚園・認定こども園における環境教育の推進というものが入っていて、これまでは入っていなかったと思うのですが、これはとても重要なことです。今、世界的には幼児教育というものを一生懸命進めていくことが重要だということがうたわれていて、来年度予定されているESDの国内実施計画の中にもそういったことを盛り込んでもらいたいと考えているので、幼児教育の推進については、是非積極的に進めていただければ良いのではないかと考えております。

いろいろ言いましたが、とりあえずコメントということで聞いていただければと思います。

(委員)

石川県産業資源循環協会から、地球環境の保全、循環型社会の形成についてお話しします。

我々は昨年の3月まで産業廃棄物協会という名称でしたが、昨年4月1日に産業資源循環協会に名称変更いたしました。我々の母体である全国産業資源循環連合会も同様に名称変更しております。

3R、リユース・リデュース・リサイクルの中でリサイクルについて言いますと、我々の仕事を大きく分けると、収集運搬業、中間処理業、そして焼却、埋立があります。その中で、地球環境の保全、循環型社会の形成について考えると、特に中間処理業はこれらに尽くしていると思っております。例を挙げると、木くずはバイオマス発電に、廃プラはRPFにして売っ

ており、コンクリート殻は再生砕石にしております。バイオマス発電は〇〇へ持って行っており、RPFは〇〇とかがあります。また、再生砕石は、公共事業や民間の方へ持って行ってあります。これら3つにおいては、99%程のリサイクル率を上げています。協会では、災害廃棄物の適正処理、二酸化炭素の削減、地球温暖化の防止、環境保全や人材の確保・育成に努めています。現場においては労働安全を徹底し、事故を起さないことを会員一同頑張っております。

そして、リサイクルを行っているとお悩むことが多々あります。それは需要と供給が上手くいかないということです。特に供給については、作った物がなかなか売れないということがあります。出来た製品、例えば木くずのチップ等は雨に当たると一層売れなくなりますが、何とか使っていただきたいと思うことがあります。

それと、最終処分場については、安定型は平成12年には全国で1,450施設ありましたが、それが平成28年には1,040施設と、4割減りました。そして、今現在ある最終処分場がどうなっているかと言うと、量が少なくなっていった施設はもう廃止しましたし、今稼働している施設は増設と言いますか、自分の地区をもう少し増やすといった傾向が起きております。そういうことで、将来の最終処分場を思うと、非常に心配しております。

また、第3章の自然と人の共生については、日本は人口減で、地方では過疎化になり、山の整備ができず、イノシシやサル、クマが街へ出てくるようになりました。今から60年前は炭が燃料だったんです。コナラ、どんぐりの木を切って、そして炭にしました。一度切った木は、20年経つと、また炭に使える木になるわけです。その炭がプロパンになり、原油になり、電気になり、炭が使われなくなったために山が荒れたということが非常にあると思っております。イノシシは、今から50年ほど前は山間地奥深いところにいたわけです。結局、雪がたくさん降ると、餌がないのでイノシシが育たないということです。ところが、私は杉の木を日本各地で植えすぎたのではないかと考えております。というのは、杉の木は針葉樹ですから葉が落ちないので、雪が降っても根元に雪がなく、冬はそこへイノシシが棲みつくといい傾向もあります。それともう一つは、春になると、スギ花粉により花粉症が起きるといいとも言われておりますし、杉の木よりも広葉樹を植えればよかったのではないかと考えております。

第4章の生活環境の保全については、下水道が整備されて川の水が非常に綺麗になったと思っております。日本には原油はないですが、山が国土の7割あって平野が3割あります。そして富士山の3,776mから海の0mまで、地下資源が非常に豊富にあります。水道水も良いですけど、日本には地下資源もたくさんあるということで、自然のものを使っていかなければならないと思えますし、太陽光も大事なクリーンエネルギーであると思えました。

(部会長)

委員からは、産業資源循環協会のお立場として、中間処理業が地球環境の保全に非常に役に立っているということ、それから最終処分場が今後段々と少なくなっていく懸念もある。山が少しずつ荒れる方向にあるので、これらに配慮して進める方がよいというご意見がございました。

(委員)

私からはまず第6章の環境教育のところなんですけど、消費者教育を通じた環境保全への意識醸成ということをお記していただきありがとうございます。生活環境部の中に環境部門と生活

安全部門、消費者教育の部門が一体化した成果かなと私は大変喜んでおります。家庭科の教科書では、環境と消費者教育がひとつのタグになっていますので、そこは一体化して進めていくべきものかなと思っています。その中で、私も中学校、高校の授業に行かせていただくんですが、なかなか学校のドアが固いのです。私は学校のドアには外側にノブが付いていない、中から開けてくれないと絶対に入れないと表現しています。人材の活用といったことで言いますと、教育委員会の皆さんもいらっしゃいますので、外部の講師が学校に入れるように、是非お願いをしたいと思います。

それから先ほど委員が仰っていたように、トキやライチョウだけじゃないだろうと私も思っています、それぞれの学校の地域学といったような形で、その地域の自然や地域の環境を学ぶということを、もう少し明確に意識付けていただくと良いと思っています。

それから第5章の環境ビジネスの創出のところで、いしかわエコデザイン賞と石川県エコ・リサイクル認定製品があるんですが、なんとなく接近しているような部分もあって非常に難しいという気がしています。実は石川県エコ・リサイクル認定製品には食品は含まれていないんです。それと石川県内で廃棄されたもの、あるいは作られたものしか認定されないみたいな縛りがあって、石川県の産業構造は、残念ながらバランスよくいろんな工場があるわけではないので、石川県ではなく県外で減量化しないといけない場合もありますので、もう少し広域連携的な形でできないかなと。例えばパルプ工場は富山県にしかない、石川県にはない。紙から紙はできるけど、チップを紙にするのは隣県に持っていかないといけないといった部分もありますので、もう少し、福井県、富山県だけでなく岐阜県というように、いろんな連携をしていくことができれば。例えば陶器を粉にして、それを粘土の中に入れることができるといった可能性も新たに出てきますので、ビジネスを育てるという意味では、もう少し広域連携といったことも、もっと考えていただければと思います。

あとは環境美化という観点で、いわゆる海岸清掃みたいなことが位置付けられているのですが、今、本当に喫緊の課題である海洋プラスチックの問題を考えた時には、もう水際での対策をするしかない。私は、環境問題はごみに始まって、また最後にごみに立ち戻るというくらい体験型のものとして、ごみを清掃するというのは良いツールだと思っていますので、ごみを出さないということももちろんなんですが、修景とか環境美化だけでなく、海洋プラスチックの除去ということを明確に位置付けて、幅広に書いていただけたらありがたいと思っています。

あと最後に食品ロスのところで言うと、フードバンクとフードドライブのことを書いていただきありがとうございます。いしかわフードバンク・ネットというものを作って、ようやく1年が経ちました。県内のいろんなネットワークが少しずつ進んでおり、こういった中で食品ロスの啓発も進んでいくと思いますので、県とも連携して続けていきたいと思っています。

(部会長)

いくつかの点でご意見をいただきました。環境ビジネスを広域的な視点で、環境教育についてもちゃんとやるということが分かるようにとのご意見に繋がるとは思いますが、学校との連携、敷居が高いのかドアが固いのかは分かりませんが。それから地域との連携をもう少し密にとれるようなことを考えていただきたいというご意見だったかと思います。

(委員)

時間が迫っているようですので簡潔に申し上げます。私からは2点申し上げたいと思います。

1点は、石川県の環境資源として、水というのは非常に大事だと思うのですが、公共用水域の水質の保全に関して、私どもが問題だと思っているのは、公共下水道を敷設しても、それに繋がらない家庭が約9%ぐらいあるんです。公共下水道に各家庭の下水を繋がないと、その地域の排水路に下水が出て、結局地下水の汚染に繋がりますので、接続率を向上するというのを加えていただくと大変ありがたいと思います。せっかく公共投資で下水道を敷設しても、それに繋がないと、効果が半減するわけですから、是非お考えいただきたいというのが1点です。

それからもう1点は、地球温暖化に関連しまして、積雪水資源についてです。積雪がものすごく減っているんです。石川県は白山の積雪水資源で助かっているところがありまして、手取川ダムの4、5倍ぐらいの水資源を蓄えているなど、大変なものです。そのことが私の見た範囲ではどこにも書いてないようですので、どうか考えていただきたい。私どもの試算ですと、今世紀末には積雪水資源が約4分の1ぐらいになるという研究成果も論文として出しております。ここ10年ぐらい追跡してみますと、だいたい我々が予測した通りに積雪が減っています。今世紀末に4分の1ぐらいになりますと、水の循環がずいぶん変わってきますので、その点をどうか加えていただきたい。

(部会長)

委員から2点ございまして、1つは、公共下水道に意図的に繋がらないと。

(委員)

やはり敷地内は自分で配管等の敷設をしなくてはならないので家庭の負担になるものですから接続しないのです。下水道料金も加わります。平均して100万ぐらいかかるのだそうです。お年寄りの方はもうこのままでいいですと、簡易下水道で済ましてしまう。そういうことでなかなか促進しないようです。

(部会長)

水質浄化、綺麗な水という意味では、是非推進をやっていただきたいということ。

(委員)

特に能登の方は接続率が悪いように聞いております。

(部会長)

2点目は、白山域の積雪水資源が非常に貴重だが、今後減ってくるかもしれないと。こういう観点からも、水環境についてもうちょっと書き込んだ方が良くはないかというご意見かと思えます。これについて、何か事務局の方からコメントございますか。

(生活排水対策室)

下水道の事業主体となっているのは各市町ですけど、環境総合計画の中には、整備、普及率の数字を載せてあるのですが、接続率、先ほど委員の指摘にもありましたけど、確かに普及率が30年度末で94.2%ぐらいになっているのですが、せっかくそこまで伸びているのに、1割ぐらいの人がまだ繋いでいないというのは、実際現状そうなっています。ただ、各市町においても、下水道が整備されている地域については、できるだけ速やかに繋いでもらうよう、広報などを通じてPRしているところございまして、力を入れていないわけではないので、その点ご理解いただけたらと思います。

(委員)

私も県がものすごく努力しておられるということは承知していますし、知事もよく知ってい

るんです。問題の所在は認識しておられるんですけど、なかなか浸透しない。だから市町も頑張っていて、大切だというPRを更に進めていただければというお願いです。

(委員)

個々の取組は良いと思うんですが、全体的な話で、資料3を見るといろんな取組が書いてあるんですけど、この中で新規と継続はどうなっているのかということです。素案の5ページにもありますが、ふるさと環境条例及び前計画に基づきやってきた、それを踏まえて、今回次期の計画を立てられると。継続の取組がどの程度あって、新規がどれなのかということが、資料3を見てもまったく分からないんですよ。次の段階の計画に対して、取組に対してどの予算を削ってどの予算を多くするか、それから個々の継続課題については、継続する場合、予算を減らすのか増やすのかという、検討をしていくと思うんですけど、計画の段階でその点が見えるようにしていただければと思います。

(部会長)

難しいかもしれないですが、要するに、何が新しく入れた目玉か、それを県として頑張るんだよというところをちゃんと分かるように書いてほしいというご意見でよろしいでしょうか。できるだけ事務局の方でも対応できるように考えてみていただきたいと思います。

(委員)

新型コロナウイルス感染の拡大が大変なことになっています。私の夫の職業はクリニック経営で、いつも医療廃棄物を出しているので、危険性をいつも注意しています。医療廃棄物はどこにいくんだろうと思っています。今回みたいな非常に力の強いウイルスが金沢で見つかった時に、どのように処理していくか、県としても準備はできているのでしょうか。

(廃棄物対策課長)

感染性廃棄物のマニュアルがございまして、特別管理産業廃棄物ということで、特別に厳重に管理をできる運搬業者、処分業者が処理することになっており、その辺はしっかりと対応することとなっております。

(部会長)

今のところ、石川県で感染者は確認されていませんが、いつ何時感染者が発生するか分かりません。是非、我々も含めて、県としても対策を怠らないようにと思います。

5 閉 会